

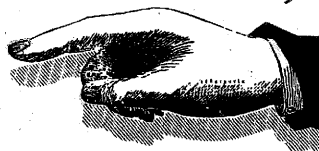
いて、アリストテレスの思想をもとに理想の姿を論じている。書にある技術論や指導者の体験記と違い、コーチングは何のために行うのか、その根に踏み込んでいるのが特徴だ。

著者は現代を「美徳なきコーチングの時代」と述べる。コーチが勝利至上主義に陥り、自己の名譽、金銭的な欲望を求め、ハラスメントが続く状況を意味する。だからコーチには美徳が求められる。コーチの目標は試合などで「ア

### コーチングの哲学

コーチングの哲学

佐良士茂樹



著者

(青土社・2640円) さろうど・しげき 81年 日本体育 神奈川生まれ。専門は心理学。古代ギリシア哲学。コーチング学、古代ギリシア哲学。コーチトレーナーでもある。

「コーチたち一人ひとりが目指すべきは、コーチングという営みを通じて自らの徳を發揮して善く生きることである。」 東京五輪の是非をめぐる議論が絶えないが、この機会になぜスポーツをするのか、その本質的な在り方についてもぜひ考えたい。本書はギリシア哲学に触れる醍醐味もあり、そこからビジネスのリーダー論として読むことも可能だ。《評》ノンフィクション作家 澤宮 優

敗で困窮したヘイン、いじめの経験があるワンジ。性格も家庭環境も違っけど、4人はいつも一緒だった。だが、彼女たちの住む地域の特異な事情により、高校に行けばバラバラにならなければならない。そんなふうな4人は何らかの「運命」に置かれている。それは、大人たちによって定められた道だった。ダユンとヘインは先生や親に進められるがままに高校を受験しようとしていた。母の決断で引越して、

### ミカンの味

鄭 鍾賢著

まず第1章が素晴らしい。校内暴力が吹き荒れた時代の中学校に漂うタバコの香りと割れた窓ガラス。校内で我が物顔にふるまう不良たちへの疎ましさや一抹の憧れ。1980年代に公立中学校に通っていたものなら、一気に思春期の記憶が蘇ってくるのではないだろうか。そこではシンナーにハマって消えていった友の様子が語られるのだが、その姿はひどく切ない。

著者は薬物依存治療の第一人者。日本の薬物依存のイメージは90年代の「ダメ。ゼッタイ。」から変わっていないが、そういう恫喝だけでは患者は減らないと著者はいう。依存症に必要なのは裁きではなく、治療なのだ。

しかしこの本は著者が出会ったちょっと奇妙な患者たちと医師たち、そしてユーモラスな失敗を重ねる著者自身のエピソード満載の

### 誰がために医師はいる

松本 俊彦著

### 薬物依存恫喝では止まない

エッセイ集でもある。冒頭の中学時代から始まり、医大生、研修医をへて、一人の青年が経験を積みだ依存症臨床の専門家になっていく姿は眩しい。

著者は依存症一筋だったわけではなく、自殺予防部門や少年鑑別所での診療なども経験している。そつた多様な現場からは一つの共通した情景が浮かんでくる。そ

れは過酷な生育歴などにより大きな心的痛みを抱えた人たちが、自分を支えるために薬物や犯罪や自殺といった逸脱的な行為に縋っていく姿だ。だからそつた人たちは刑罰で恫喝したところでその行為は止まないのだ。本書には一貫して「暴力による脅しと恥辱的な罰」への怒りが流れている。それは中学時代の松本少年が体罰で学

内を制圧しようとする躍起になってた暴力教師に感じていたものかもしれない。だが問題に直面してすぐに処罰しかないと考えた暴力教師のメンタリティは今の世間にも蔓延しているのではないのか。何か問題をかかえた人間が見つかるとたちまち非難の嵐が吹き荒れ、さらに政治家が煽ったりする。そこに欠けているのは他者への想像力と対話の意志だ。

きわめて重要な本が出た。併合植民地時代に日本に来た朝鮮人といえは、「強制的」に連れてこられて過酷な労働に押しつぶされたひとたち、という一般的なイメージがあるだろう。しかし、朝鮮人は画一的でも均質でもない集団である。 女界難を渡って日本内地の帝国大学に学んだ朝鮮人学生は1000人をゆづり超え、正式な卒業生は800人弱。京城帝大の朝鮮人卒業生より多かった。

誰がために 医師はいる 松本俊彦

(みすず書房・2860円) まつもと・としひこ 67年生まれ。精神科医。国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部長。

依存症への適切な対処は、少年犯罪や自殺企図といった他の様々な問題行動へのヒントにもなりうるのではないのか。笑ったりホロリとしたりしながらも、そんなことを考えさせられる素晴らしい読み物である。

《評》小説家 倉敷 茂

卒業後は民族を代表する大企業をつくらしたり、総督府の特権層となったり、著名な(英雄的な)科学者になったり、解放後に新しく誕生した韓国と北朝鮮の知の土台づくりをしたりした。また、「帝国の知で帝国に抵抗した」若者たちもいた。独立運動家やマルクス主義者たちである。有名な詩人・尹東柱の従兄であった宋夢奎は京

### 帝国大学の朝鮮人